

# 平成21年度 赤穂市学校評価 外部評価報告書

学校名 赤穂市立尾崎小学校

## 【本年度の学校経営方針】

学校教育目標：生きる力を育み、感性豊かに生きていこうとする子の育成  
～子どもたちが自信と誇りをもち、夢に向かって生きていきたいと実感できる魅力ある学校を目指して～

本校児童の基礎学力は着実に培われているが、判断力や思考力等の活用力・応用力は十分とは言えない。これは、この能力を育む教材や習得したことを活用する活動が不十分であったり、分かる授業が準備されていなかったりといった原因があると考えられる。そこで、これまでの授業のあり方を見直し、子どもたちにとっての「分かる」授業を研究し実践することにより、一人一人に確かな学力の定着を図っていききたい。一方、一人一人の児童は、落ち着きがあり仲もよく、何事にも一生懸命に取り組む。しかし、自尊心は必ずしも高いとは言えず、中には人間関係をうまく築けない児童もいる。そこで、全領域において幅広い人との交流と様々な体験活動を仕組み、一人一人に豊かな心を培い、自尊心を高めるとともに、支持的風土のある学習集団を築いていきたい。また、家庭や地域の願いを真摯に受け止め連携を深める中で、双方向で子どもたちの教育を推進するなど、開かれた学校づくりに努めたい。

## 【本年度の学校重点目標】

- 1 確かな学力の保障する・・・確かな学力を定着と向上をめざす。(授業改善の徹底)  
・教育専門職としての資質の向上をめざす。(研究・研修の深化)
- 2 豊かな心と体を育てる・・・コミュニケーション能力を育み、良好な人間関係を築く。(人権教育の推進)
- 3 家庭・地域の学校への信頼を高める(家庭・地域との連携の強化)
- 4 安心して通える学校環境を整える。(危機管理体制の確立)

## 【総合的な学校関係者評価】

学校教育全般に関して言えば、総合的に経営方針そして実践方法は適切であり、その成果は良好であると考えられる。子どもたちが楽しく登校し、意欲的に学習に取り組んでいる姿や地域の中であいさつを交わす子どもの姿を見るにつけ、学校での指導の充実ぶりを感じている。また、昨年度末評価に出ていた課題(教育課程改訂に伴う教育内容やモジュールのあり方についての説明責任等)の改善努力も見られ、学校運営がさらに充実したものになっていると言える。  
しかしながら、昨年度と同様の課題(子どもと教師との関係づくり、食育、地域との連携、子どもの安心・安全の確保等)も見られるので、引き続きその改善に努めてほしい。なお、家庭学習のこと、食育、下校時の巡回等については、学校と家庭・PTAが連携を強めて取り組んでいく必要がある。22年度において、PTAと共同歩調を取りながらその改善に努めてほしい。また、子どもと教師の関係づくりについては、教職員の勤務状況(超過勤務、勤務の繁忙・複雑化等)も多分に影響しているようである。教職員の健康管理という観点からも、是非適正な勤務の実現に向けて鋭意努力してもらいたい。

## 【自己評価結果(A～D)】 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校園・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策 (成果と課題)	外部評価者の意見
編成	項目 指標 ①教育活動は子どもの興味関心や負担等に配慮した内容を考え、適正な計画・運営できたか。 ・教科の学習や学校行事と魚、意欲を持っていきいきと取り組んだ。	アンケート 児童の様子	A	新学習指導要領の趣旨と児童の実態を踏まえた教育課程を編成し実践してきた。その成果は着実に表れている。しかし、授業時数・学習内容の増加に伴う負担は増しており、学校行事等の諸活動の厳選等が必要である。	学習指導要領改定により学習量が増加したことを受け、リスクを最小限に抑えられる取り扱い方を十分に検討し、効果的なカリキュラムを編成してほしい。
	項目 指標 ②学校行事総合的な学習の時間等の体験学習を通して、感動する心や思いやりの心など豊かな心を育てる編成を行ったか。 ・体験学習の中で、人、自然、命との出会い、豊かな心が育っている。	アンケート 児童の様子			
学 校 重 点	項目 指標 ①各教科において、基礎・基本を明確にし授業を進めたか。 ・国語、算数等の読む、書く、計算する力等が確実に身に付いている。	アンケート テスト等	B	赤穂ドリルの検定結果によると、全学年で95%以上の正答率を示した。また、漢字力や話す力等の基礎的な学力の向上も見られる。また、社会科学習や学級会活動で、話し合い活動を重視してきた結果、物事を深く考えようとする態度も育ってきている。その一方で、数学的思考力や科学的分析力等は十分ではなく、それを育むための指導法・授業の改善が必要である。また、子どもの学習状況を家庭へ発信し、家庭と共に子どもの学力の定着・向上を図る取組も必要である。	基礎学力を焦点化し、それにそった指導内容を考えと共に、モジュールの充実を図る。また、子どもの学習状況を発信したり、家庭との連携によって子どもの学力の向上を目指してほしい。
	項目 指標 ②基礎基本の定着を図るため、「わくわく15」の導入により、補充的な学習の時間を確保し、指導法の工夫や改善を行ったか。 ・「わくわく15」の時間に集中して繰り返し学習を行うことで、計算・漢字の力がついたか。	アンケート 評価テスト			
	項目 指標 ③個に応じたきめ細かな指導を意識して、推進してきたか。 ・自分のつまづきが解消されて分かる喜びを感じると共に、自分の興味関心にあった学習ができ、意欲的に取り組んだ。	アンケート 授業研究 自己評価			
	項目 指標 ④形成的評価と児童の自己評価を基に、指導と評価の一体化に努めたか。 ・自分自身に振り返りやミニテストで、理解できるようになった。	アンケート 自己評価			
	項目 指標 ⑤家庭との連携により、児童の学習習慣の確立を図ったか。 ・漢字・計算などの繰り返し学習は、全員が毎日取り組んだ。	アンケート 点検カード			
点 目	項目 指標 ①体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に採り入れたか。 ・体験学習に意欲的に参加したり、自分なりの方法で課題解決学習に取り組んだりした。	授業研究	A	社会科教育の研究をする中で、子どもたちに探究学習の手法を習得させることで、子どもたちは意欲的に学習に参加するようになっている。また体験学習を積極的に導入することで、主体的に学ぼうとする態度が育ってきた。	表現方法(スキル)を習得させる、コミュニケーション能力を育ててほしい。
	項目 指標 ②知識・技能の活用など思考力や判断力等を育むための学習活動を採り入れたか。 ・日常生活や体験的な学習から感じ取ったことを言葉や歌・絵・身体などで表現したり、観察や見学の結果を記述し伝えることができた。	授業研究			
標	項目 指標 ①朝読書の時間において、そのねらいにそった内容の充実を図ったか。 ・朝読書を楽しみにし、学年の発達段階に応じた内容の読書ができた。	児童の様子 アンケート	B	朝読書の積み重ねにより、子どもたちの読書意欲は高まり、読書量が増えている。一方、海の体験学習や米作り等を通して観察力が育てられている。ただ、科学的分析力や洞察力は十分ではなく、実験・観察の内容・方法について見直す必要がある。	研究の成果が、子どもたちの学ぶ姿から感じられるよう、実際のなものになるよう努めてほしい。また、その様子を保護者や地域にも発信してほしい。
	項目 指標 ②各教科において、実験観察のまとめ、レポートの作成・推敲、討論など、言語力や表現力を育てる指導を行ったか。 ・実験観察の結果や考察をまとめ表現したり、自分の考えを伝えあったりする力が付いている。	授業研究 児童の様子			
教 職 員 の 研 究 ・ 研 修 と 意 識 の 高 揚	項目 指標 ①研究主題に対応した校内研究体制を確立し、計画的に研究を実施したか。 ・研究推進委員会、専門部会等が機能し、計画的に授業研究等の研究を深めることができたか。	各種委員会 等の取組	A	本年度は人権教育をテーマにした研究推進を行ってきた。研究領域として、社会科・道徳・学級活動を取り上げ、授業研究を中心にその指導法の工夫改善に努めた。その結果、子どもたちは話し合い活動のパターンを習得し、また道徳的な考え方も身につけていった。引き続きこれらの取組を継続し、定着を図っていききたい。	
	項目 指標 ②研究推進内容は適切であったか。 ・人権教育、教科指導等の研究を深め、研究主題達成に努めた。	授業研究 児童の様子			
	項目 指標 ③研究主題や年間計画について、確実に理解できていたか。 ・各自が研究主題や年間計画を意識して、見通しを持って効果的に研究に取り組んだ。	授業研究 児童の様子			
	項目 指標 ④授業研究会などを通して、授業改善・指導力の向上が図れたか。 ・研究主題に向かい、焦点化した授業研究を行い、自己の授業改善につなげることができた。	授業研究 児童の様子			
	項目 指標 ⑤研修の成果を、教育実践に生かしたか。 ・命令研修、自主研修、校内研修等の成果を、自己の教育実践に生かした。	授業研究			

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)		評価資料		改善の方策 (成果と課題)	課題と来年度の具体的改善策
	項目	指標				
重 点 目 標 2	よりよく生きる心を引き出す道徳教育の充実	項目 ①児童の実態を踏まえた適切な主題を設定し、魅力的な資料の活用や指導過程の工夫により、「道徳の時間」の充実を図ったか。	授業研究 児童の感想	A	子どもの心情に訴える教材や発問、一人一人が主体的に学習に参加していこうとする道徳学習の研究を深めてきた。また、特別活動等においてその実践力を育むための工夫（異年齢集団交流等）を設定し、その具現化に努めた。その成果は確実に生活の中に表れてきている。しかし、実態を伴わない学習もあり、改めて道徳カリキュラムの見直しが必要である	子どもたちが、地域の中でも進んであいさつを交わせるよう、さらなる指導を進めてほしい。
		指標 ・道徳の時間に、資料を通してじっくりと考え、一人一人、自分の心を見つめることができた。	児童の様子			
		項目 ②道徳指導が児童の生活に生かされるよう実践化に努めたか。	児童の様子 アンケート			
	自他の人権を尊重し共に生きる心を培う人権的実践力の育成	指標 ・学校や日常生活の様々な場面で、道徳で学習したことを意識して生活できている。	児童の様子 アンケート	A	児童の自尊感情が必ずしも高くないとの実態に鑑み、まず子どもを認めることからスタートし、その上で支持的風土の学級経営づくりに努めてきた。その結果、全ての学級で温もりのある仲間づくりが築かれていった。そんな中で、教師に相談をかけにくいという結果が出ている。これは教師の人間性も原因の一つかも知れない。が、総じて教師に時間的・物理的なゆとりがないことが大きな要因であると考えられる。勤務時間の適正化も含めて、このことについて真剣に考えていきたい。	
		項目 ③学校の教育活動のあらゆる機会において、児童の自尊感情を高めるよう努めてきたか。	児童の様子 アンケート			
		指標 ・学校で頑張りをはめられたり認められたりすることで、自分が好きだと感じている。	児童の様子 アンケート			
		項目 ④一人一人の人権を大切にし、全領域の中に位置づけ推進してきたか。	児童の様子 アンケート			
		指標 ・学校が大好きで、毎日登校することを楽しみにしている。	児童の様子 アンケート			
		項目 ⑤児童の命と人権を守り、いじめや不登校問題を解決しようと努めたか。	児童の様子 アンケート			
	たくましい体づくり	指標 ・友だちと仲良く学習したり遊んだりしており、安心して学校生活を送っている。	児童の様子 アンケート	B	本校児童はインフルエンザ禍に見まわれつつも、大病を患うことなく何とか凌いできた。今後は、子どもが進んで体力づくりに取り組む環境を整えていきたい。また朝ご飯を食べてこない児童が比較的多く、家庭と共に食習慣の見直しを図っていきたい。	
		項目 ③児童理解の方法を工夫し、児童をよりよく理解し、一人一人の実態に即した指導を行ったか。	児童の様子 アンケート			
		指標 ・安心して、何でも気軽に自分の思いを伝えたり、相談したりできている。	児童の様子 アンケート			
項目 ④教師自身、自らの人権感覚を高めるように努めたか。		児童の様子 アンケート				
特別支援教育の充実	指標 ・先生の言葉や行動で、安心して学校生活が送れているか。	アンケート	B	本年度肢体不自由児の入学があり、特別支援学級が2クラスになった。子どもたちの自立を願って個別支援計画を整え、指導法の研修と工夫改善に努めてきた。また他の子どもたちの理解を深めるため、全ての学級で障害のある人についての学習を行ってきた。その結果、相互に支え合い助け合う「共生」の心が育ってきた。		
	項目 ⑤家庭との連携を密にし、家庭・学校生活両面から、人権的実践力を育てるように努めたか。	アンケート				
	指標 ・家で学校でも、思いやりを持ってよりよく生きようとしているか。	児童の様子 診断テスト				
	項目 ①体育の時間や業間運動などにおいて、児童の体力向上に努めたか。	児童の様子 アンケート				
重点 目 標 3	指標 ・体育の時間や運動会やマラソン大会等を通して、運動の楽しさを感じながら体力をつけている。	児童の様子 アンケート	B	学校だよりを年間18号と予定していたが、目標を達成することができなかった。しかし、各号の内容を充実させ、特に学習内容・教育活動の情報を啓発することで、家庭・地域への発信ができたのではないと思う。その一方で、教職員の地域行事等の参加は、必ずしも十分とは言えなかった。その背景には休日や夜間の開催という出にくい状況もある。できる範囲での参加を勧めていきたい。		
	項目 ②「食」育を通して、「早寝・早起き、朝ご飯」等自ら健康管理ができるよう指導している。	児童の様子 アンケート				
	指標 ・「早寝・早起き、朝ご飯」の習慣が付き、全児童が毎日朝ご飯を食べて登校している。	児童の様子 日記				
	項目 ③他の児童が、特別な支援を要する児童に対して、適切な関わりができるよう指導したか。	児童の様子 日記				
重点 目 標 4	指標 ・特別な支援を要する児童に、声をかけたり、一緒に行動したりすることが自然にできる。	アンケート	A	昨年度の水着盗難事件以来、学校・家庭の防犯に対する意識はさらに高まり、協力関係が強くなった。また保護者による交通立番指導の継続、防災訓練への積極的参加など、危機意識の高まりも感じらる。さらに老人クラブによる下校時の巡回も効果を奏している。なお、保護者の巡回参加が地域から求められており、今後の検討課題である。		
	項目 ④保護者や地域の人々に、特別支援教育の理解を促したか。	アンケート				
	指標 ・家や地域で、特別な支援を要する人のことをきちんと話したり、適切に声をかけたりできる。	活用状況 調査				
	項目 ①学校の教育活動に関する情報を、地域や家庭に提供できたか。	活動参加 状況				
安全・安心 防災・防犯 の指導	指標 ・地域の人や保護者は、学校の様子を分かりやすく伝えてくれていると感じている。	アンケート 参加状況	A	巡回パトロールは老人クラブだけに任せるのではなく、保護者も参加するべきだと思う。検討してほしい。		
	項目 ②地域の教育力を生かし、住民参加の教育活動の推進を積極的に行なったか。	アンケート				
	指標 ・地域の人々は、支援ボランティアとして積極的に教育活動に参加してくれた。	アンケート				
	項目 ③保護者や地域の人々との連携を深める諸活動に参加できたか。	アンケート				

【自己評価における特記事項】

【項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法】